課題 １９０

Web媒介型攻撃対策技術の実用化に向けた研究開発

Web媒介型サイバー攻撃対策技術の実用化に向けた研究開発を実施し、実践的な対策環境の実現が期待される。

【背景】・Web媒介型攻撃は未だ重大な脅威（日本年金機構への初段攻撃はWeb媒介型攻撃）
・Web媒介型攻撃の大局を観測・分析可能な国内組織は皆無

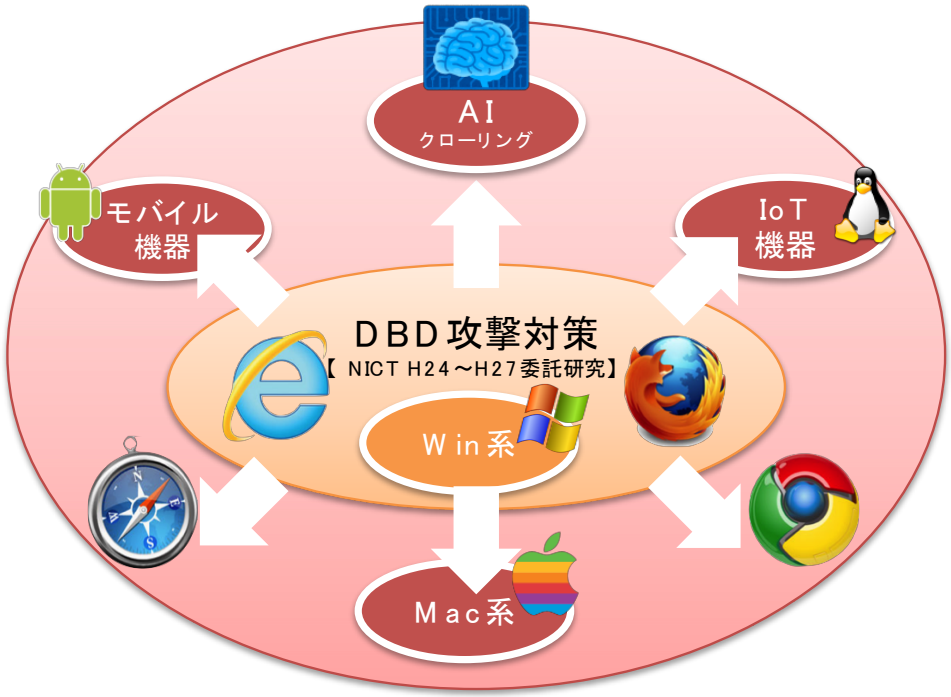
【課題】・Web媒介型攻撃対策技術の実用化に向けた橋渡しの研究開発が必要
- 数万人規模の大規模・長期実証実験　（民間企業で開発フェーズでのユーザ参加型実験は困難）
- Webサーバ側の攻撃観測技術　（民間企業で攻撃観測用の囮サーバの運用は困難）
- IoT機器内のWebサーバの対策技術　（IoT機器のセキュリティ対策は初期検討段階）
- 個人情報に関する法的・技術的検討　（民間企業単独でのプライバシ関連の検討は困難）

【目的】Web媒介型サイバー攻撃の対策技術の実用化を目指す。

【研究開発概要】
・大規模・長期実証実験

・新規機能開発
- ✓ 新型センサ開発、センタ機能強化
- ✓ 新規機能の実証実験への逐次投入

・AI技術を応用したクローリング機構



【自主研究との関係】
・NICTERプロジェクトとデータ共用
・NICTER関連データとの横断分析

研究開発期間　：平成２８年度（契約締結日）～平成32年度末（5年間）
平成２８年度予算　：200百万円（上限）、　採択件数：１件